

## 令和6年度 3学期始業式 校長式辞

令和7年が始まりました。今年は天候にも恵まれ、穏やかな年始を迎えることができたのではないかでしょうか。

そんな中、初詣に行った人もいると思います。わたしも出かけましたが、神社に行くと絵馬が奉納されています。そこには「開運祈願」などと書かれているものもあります。「運が開きますように」と神様にお願いするということですね。

今日は、その「運」についての話をします。

アメリカの思想家で、ナシーム・ニコラス・タレブという人がいますが、その著書「ブラックスワン」の中で彼が主張したことは、「ブラックスワン理論」と呼ばれています。

「ブラックスワン」つまり「黒い白鳥」ということですが、「ありえない、起こりえない」と思っていたことが急に起きた場合、人や社会、歴史に、非常に強くて大きな影響を与える」というものです。不確実性とそのリスクの本質について述べています。

そのなかで、タレブ氏は、成功した人の成功の理由は、実はすべて「たまたま」「偶然」、つまり「運」だと分析しているのです。

その主張を受けて、科学者たちは、「運」という不確実性に対しても人は対応できるのではないか」と考えるようになり、「運をつかむためには、自分たちが生きている不確実性に満ちた環境に、自分たちの方が柔軟に適応するしか方法はない。不確実な世界は変えることなくそのままに、自分が変わることが「運」をつかむ方法になる」と主張しています。

では、自分はどう変わればよいのでしょうか？

脳科学者の中野信子氏は、「チャンスは皆にほぼ平等にあるのに、そのチャンスを見つけられる人と見つけられない人がいる。チャンスを見つけられない理由の一つに、そのチャンスを重要と思っていないからということが多い。だから、私たちが磨いておくべきは「気づく力」と「見つける目」だ」と述べています。

心理学では、「引き寄せの法則」というものが言われています。「心の中で強く願うことで、願いが引き寄せられる様に実現する」というものです。

「注意のアンテナ」を立て、その感度を高くすることにより、自分が求める情報に意識が向きやすくなり、その情報に気づき、見つけ出すことができるようになる。その結果、たまたま訪れたチャンスを正しく受け入れられるようになり、それが願いの実現につながっていく、ということを意味しています。

以前、アメリカのハーバード大で「なぜ目標が実現しないのか」という研究が行われたそうです。結論は簡単でした。「目標を忘れるから実現しない」ということでした。

年の初めに立てた目標がどれだけ実現するのかを調べたところ、年末に「年初に立

てた目標を言ってください」と聞いてもほとんどの人が記憶していなかつたそうです。目標自体を忘れているのだから実現するわけがないわけですね。

目標は忘れてしまうから実現しない。逆に言えば、目標を忘れなければ実現する、ということになります。

「念ずれば花開く」という言葉もあります。目標や夢は、具体的な言葉にして常に意識していることが実現のコツ、ということです。

ゲッターズ飯田さんという占い師の人だそうですが、この人は「運がよくなる口ぐせ」という本を書いています。これまで7万人以上の人を占ってきた結果として、運が良い人の特徴を六つ挙げています。自分は当てはまるか、考えながら聞いてください。

- ・どんなことでも面白がる
- ・上手くいかない状況でも楽しむ
- ・人からのアドバイスを素直に実践する
- ・ケチケチせずに自分から与える
- ・苦手な人を避けようとしない
- ・すぐに決断し、すぐに行動する

あるアンケートの分析結果からも、「自分のことを運がいいと感じている人は、社会や家族・友人といった周囲の人々に感謝をし、謙虚な生き方を貫くタイプの人が多い。ただし、「天は自ら助くるものを助く」という西洋のことわざがあるように、運のいい人は他力本願ではなく自分を信じてひたむきに努力し、自ら運を切り開く強さも併せ持っているという傾向が見られた」とのことでした。

そして、この人と仲良くしたいな、一緒に居ると気分が良いな、と思ってもらえる人には周りの人がチャンスを運んできてくれる。すると、自然と運が開けてくるということのようです。

令和7年を迎え、新年の抱負や目標を立てた人も多いと思います。

自分の願いや目標を具体的に意識し、「注意のアンテナ」を立て、「気づく力」と「見つける目」を意識しながら、物事をポジティブにととらえ、周囲の人たちに感謝しながら、自分を信じて努力していくようにしたいものです。

ぜひあなたたちも、自分の夢や目標を実現していくことができる人、そして自分のことを「運が良い」と思える人であってほしいと思います。

そして、よい人生を歩んでいってください。

令和6年度の総まとめとなる3学期がスタートします。皆さんそれぞれにとって充実した日々となるよう、望んでいます。